常磐毎日新聞
日刊
一月二十日　夕刊
定價　一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢　郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　坂本忠市
磐城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社
（振替口座）東京四〇二〇番

天氣豫報

今晩は北西の風晴一時曇
明日も北西の風晴一時曇

鐵工業悲鳴

天井知らずに材料が大暴騰

逆巻くインフレの波

昨年來引續く軍需インフレの波に乘つて好況來に有頂天の喜びを感じてゐるのは鐵材業者で、鐵材は高騰に高騰、十一月初旬相場に於て（針鐵）一寸三分八圓九十錢（亞鉛鐵板）八圓五十錢（鐵板）六圓八十錢（角鐵）十二圓五十錢（丸鐵）四分十二圓程度だつたのが現在では針類が十七圓亞鉛鐵板が十四円二十錢、角鐵二十圓五十錢鐵板十四圓二十錢丸鐵二十圓と云つた具合で何れも約二倍に達する物凄い奔騰振りで鐵工業者は悲鳴を擧げんばかりだが金物屋さんと共に古金物を扱ふ大小古物屋さんは此のところ凄い鼻息きで何れもインフレ景氣を謳歌してゐる

積雪解けて——街は泥海

小名濱は降らぬ

山間部五寸

平地方は昨夜來のみぞれが今朝に至つて珍らしく積雪、平町外近くの村々や山間部方面は四寸乃至五寸位の積雪量を現出して雪の少くない當地方の子供達を喜ばしたが平町は午前十時頃から解け出して全くの泥海を化した、尚小名濱方面は降雪なく同町から來平した人々が驚いて居た

死亡屆を忘れ

戸籍簿では未だ生きて居る

呑氣者に過料

平區裁判所に於ける昨年の過料處分即ち出生、死亡、家督相續等の戸籍法の屆出を怠り過料を課せられた數は合計二百七十三人に達してゐるが此內譯は出生二百十件、死亡三十七件、家督相續三十五件、で中には妻や親父の死亡の場合埋葬認可證のみを受けて死亡屆をせず戸籍上では未だ生存して居る樣になつて居た向も五六人あると

惡監督の魔手に

災ひされた寡婦

けふ温情味豐な判決

既報救濟二事に出稼ぎ中惡監督に唆され懷姙墮胎した双葉郡上岡村大字本岡字成澤三三農橫田モリ（三〇）の公判は今二十日午前十時から平區で中島監督判事係り、櫻井檢事立會の下に開廷被告は判事の訊問に對し素直に窃行を認め檢事から

「同情の餘地ある事件ではあるが懷姙した以上完全に分娩養育の義務がある、然るに墮胎して禍愆せんと企てたのは悖む可き行爲で一般婦女子の警戒の爲めに……」と懲役四ヶ月を求刑されたが判事から懲役四ヶ月但執行猶豫三年間といふ温情ある判決を言渡あり將來を懇々諭された

海軍見習工

三百廿名の

——大量申込み

新春に入つて以來平職業紹介所では既報の如く各方面の求人申込殺到して職員は轉手古舞の大多忙を極めてゐるが更に今度は橫須賀海軍工廠から見習職工三百二十名の大量申込があり、同紹介所では目下これが斡旋に大童になつてゐる內譯は（造兵部一一九、造船九六、造機九三、機雷實驗五、電池實驗三、機關實驗四）で資格は年齡十四歲以上十六歲未滿の高小卒男子詳細は同所に問ひ合せの上今月末迄申込よれたいと尚初日給四十五錢、成業後一円二十錢、來月十六日から四日間同工廠で採用試驗を行ひ三月三日發表される豫定

國防費獻金　錦村

大字中田松原正雄君は福島聯隊區司令部へ國防獻金の一部にと金十圓を寄附した

相場保合か

明日の共販米

石城販聯の俵米共販は明二十一日行はれるが出荷千百二十七俵で近來の出廻增を見、相場は大体保合ひを豫想されてゐる町村別の出廻俵數左の如し

平一二〇、飯野三三、大野三六九、平窪一六〇、神谷一二〇、植田一三一、草野二八、高久一六七。

小學校修養會　平第一、第

三各小學校職員の修養會は今二十日午後二時半から第二校作方室に開き東大哲學科出身望月重信氏の講演があつた

賀正片々（中）

僕の昭和十一年

三春　天野多津雄

三月　常磐行

筑波嶺の裾野松原のろのろと荷車ひきて牛歩み來ぬ

五月　妻の父急逝す

窓外は櫻花盛りなり人の世の哀しみに何のかかはりも無き

六月　平潟、勿來に遊足

よれかへす邊浪に戲れておほかたの子等現なし睡もあらはに

同月妻を伴ない伊勢大廟に詣で畝傍橿原京阪奈良をめぐる

鳥羽の宿の南國めきし庭樹々に夜のさみだれ降りそそぐなり

心こめてうつかしは手の音澄めりおのれ空しく祈るたまゆら

神武帝の在しけむ世にも小鳥啼き蝶飛び交ひてのどけかりしか

眞木　鐸吉

勅題　田家雪

しかけの降する方や里ならん見わたす田の面ゆきにうもれて

こん年もみのりゆたかとさゝやくかしゝまにふれる小田の白雪

四方拜によめる

日に月に星のめぐりはかはるともい照りそへてよ國の光りを

よしま　白石　龍峰

本年も一番雞におき出て社の庭で日の出拜みぬ（本年で四年目）

東京　牧野　耕雨

初風呂や日輪窓に遊べる

迎へけり六十路の今日の初日影

初日今昇るものみな清淨に

須賀川　矢部　梢郎

句屏風をうしろに廻し名刺受

たちばなに流るともしや初詣

製氷會社の職工

出張先で怪我

平製氷會社職工原巳之助君は去る十八日正午頃米澤市に出張上花澤信濃町米澤製氷工場視察中二階から墜落右前額部其他に重傷を負ひ目下同地で加療中の由

正面衝突

相手は大破

川前のトラ

川前村川前永山鳥太郎氏方運轉手永山幸一（二七）は昨十九日午後二時頃空トラックを運轉東京からの歸途千葉縣我孫子町地內で茨城縣西茨城郡山內村箱田運轉手大野武君のトラックと正面衝突大野君のトラックを大破せしめた由

石塊で頭部亂打

常に犬猿の間柄

被害者生命危し

昨夕久保町路上の喧嘩

好間村上好間字町田四魚行商荒井國太郎（四三）は昨十九日午後四時頃平町に行商に來ての歸途同町久保町鈴木榮吉方前道路地內で豫て犬猿の間柄の同業石橋正雄（四三）と口論を始め喧嘩になり五寸餘の石塊を揮つて石橋の左頭部を滅茶々々に亂打昏倒するを見て逃走せんとするを急報に依り馳けつけた平署員が逮捕、被害者は腦漿露出して平町安濟病院で加療中であるが出血多量で生命は覺つかないと

四倉寒稽古　大日

本武德會福島縣支部四倉分會の武道寒稽古は明日

傷害に罰金　既報

双葉郡木戸川發電所工事場の暴行鮮人中山三郎事禹宅守（三五）は引續き平檢事局で石合檢事の取調べを受けてゐたが今二十日傷害罪で起訴、直ちに平區野木判事から略式罰金二十圓に處された

女青總會

明日決定

既報石城第三區平町外九ケ村の女子青年團聯合總會は來る二十七日午前十

家出三件

出稼人

音信がない

岩手縣氣仙沼郡高田町トヨ長男工大職村上大助（三二）は二三年前から宮城縣女川方面に出稼ぎに行つてゐたが最近音信不通になり、人の噂に內郷、湯本方面にゐる形跡ある爲今二十日母親から平署へ

自殺するとて

平町方面へ潜入

石川郡石居町高橋利子（二四）は舊臘二十八日夜家出發二十九日郡山市中から自殺するの遺書を殘して平方面に向つた形跡あるため今二十日父親の浩さんから平署へ捜査方願ひ出た

入山炭礦か　山形

縣小性町天ぷら業吉田留次（四三）は去る十三日夜家出したが同人は十年前湯本町入山炭礦に稼いでゐたことがあるので或は同方面にゐるかも知れませんと妻やすよから今二十日平署へ

商業組合設立普及

平で講演會

縣主催の商業組合設立普及促進講演會は二十六日平町マルトモホールで開催講師は（商業組合經營）商業組合中央會囑託鈴木勇雄氏（商店經營）同半谷眞武氏（商業組合法）縣屬中山忠夫氏等である

海岸埋立無償貸下

四倉の陳情

四倉町漁業組合では四倉港築港埋立地七千坪に漁業組合事務所共同販賣所二ケ所製氷貯水倉庫貯油タンク二基等を建設すべく該埋立地を組合の共同施設に充當するため同組合の鈴木組合長、管波理事外三氏は十九日出縣、縣江合土木課長にこれが無償貸下げ方を陳情した

水產加工補助交附

縣の農村工業化

十ケ年計劃

縣では農村工業化の普及を期するため十ケ年計畫を樹立、桑種搾油水產加工、製粉麵の三事業を選定、これが改善向上並に販賣斡旋等の合理化を圖りつゝあつたが十八日農林省から同奬勵國庫補助の交附內示あつた郡下に於ては從來の小名濱町外六ケ村を含む石城水產加工場の區域を擴大、四倉町をも含む設備費二万七十三圓に對し一萬四千四百七十圓交附される筈

郡下校長會

廿八日開會

郡下各小學校長會は來る二十八日午前十時から平第一校講堂に開會、學期末の行事及び新學期の計劃に就いて協議する筈

水道新事業

實地に踏査

平町水道委員會は本日午前十時から開かれ十二年度の新事業其他を協議したが臨時部約二萬一千圓の豫定で水管延長或ひは敷設替の個所を二十二日に實地に踏査し緩急を圖つて豫算を組む事となつた

內務技師榮轉

本縣駐在內務省技師野瀨直人氏は今回秋田縣に榮轉、後任は當分小名濱町內務省築港事務所長福來惣十郎技師が土木、橋梁關係を擔任

磐女校視察　安積

高女教諭山內英一、四家皋一の兩氏は今二十日來平、磐女の教育狀況を視察した

土木委員會　平土

木委員會は今二十日十八日より引續えて午前十時から開き十二年度施行工事個所に關し協議した

加藤家寄附　內鄉

村小島加藤政英氏は亡父丈夫氏の遺志に依り今二十日平町方面事業費へ五十圓、平消防組へ百圓を寄附した

麻雀大會　平町田

町紅小路平和俱樂部では二十三日午後五時から新年麻雀大會を開催するが入賞は一等から十等まで會費は一圓（夕食付）

・・・・小名濱保健組合役員・・・・

小名濱料理業保健組合役員はこの程左記の如く組合長赤津辰吉、副組合長相澤寅治、會計柳澤今朝市、衛生係鈴木三之助、曾我品次郎、藤田武、馬上巖、成田榮吉

平職業紹介所報告

回求人之部

△洋服仕立職人　三十才迄　給歩合　高卒
△出前持　三十才迄　給面談
△農夫　四十才迄　給八圓
△〆箱人夫　二十才前後　給十—十五圓
△女中　十七—二十三才迄　給五圓
△小使　三十才迄　日給七十錢
△女中　十五—二十五才迄　給四圓
△事務員　四十才迄　給三十圓

回求職之部

△給仕　十八才　高卒
△農業　二十四才　高卒
△土工夫　五十才　尋卒

JOHK

今晩の部

▽後六、〇〇　近世日本の英傑「伊能忠敬」東京放送童話研究會
▽後六、二五　副業と農村工業の講座「農村工業の機械器具の話」吉□武之
▽後七、三〇　生活改善講座「暦に關する迷信に就て」石原純
▽後八、〇〇　義太夫義士銘々傳「赤垣源藏出立」竹本東廣
▽後八、三〇　女聲合唱「ムゾルグスキーのアルバムより」ルナ・コーラ
▽後八、五〇　浪花節「山科妻子わかれ」吉田奈良千代
▽後九、三〇　時報　ニュース　明日話題　氣象通報　番組豫告

明日の部

▽前一〇、三〇　家庭講座　食事の作法洋「食のテーブル作法」蜂谷麟
▽後〇、〇五　俚謡と尺八　佐藤滿美
▽後二、〇〇　小學生尋四の時間　學校劇「ナイチンゲール」東京學校劇子依會
▽後二、四〇　小學生尋五の時間「京城だより」稻荷誠村仙
▽後四、一〇　春場所大相撲　兩國々技館中繼
▽後六、〇〇　お話「木曾義仲火牛の計」松永亮逸
▽後六、二五　趣味講座「山スキーを始めやうとする方々へ」木村愿
▽後七、三〇　講演「青年と科學思想」辻二郎「青年純情」吉田絃二郎
▽後八、一〇　ラヂオドラマ「野口英世」青山杉作他　勞働民謡　阿部幸次
▽後九、〇五　輕音樂「ピッコロと木琴二重奏」岡村郷吉他

茶の花吟社新年會句集（四）

☒潮風に網つくろうや注連のあき　靑柳子
☒猿曳や會計店をのぞき去る　〃
☒雪を持つ鉢の万兩移しけり　〃
☒万兩に垣のうすれ日こぼれけり　〃
☒双六に除隊の兒もまじれけり　〃
☒万兩の根本明るし雪の垣　〃
☒松過ぎて疲れの早き事務とれり　寒山子
☒猿曳をのぞける窓に雪まぶし　〃
☒松過ぎて再び廣き舊家かな　〃
☒万兩に父美くしく老ひたまう　〃
☒の繪双六姉美しく笑めるのみ　〃

郷土研究　石城郡に於ける寺院（十一）

磐城高等女學校三年生調査
教諭　鈴木光四郎補正

東陽山海嶽寺　四倉町本町
曹洞宗太源派　本山永平寺總持寺
開山　大用珠芳禪師
檀家　四百五十戸
縁起　開基年代は不明なるも元當町寺澤にありしを大用珠芳禪師此の地に移轉、後四倉大膳太夫關東千葉より下向歸依深く文政元年梵寺建立す。好間村龍雲末なり。

濟海山無量院如來寺　四倉町新町
義眞言宗智山派　本山京都智積院
開山　興教大師
檀家　百二十戸
縁起　再度火災のため不詳、大正二年高野山總本山金剛峯寺より弘法大師の尊像を奉迎し大師堂に奉安し眞言宗大本山大覺寺門跡藤村大僧上の入佛により高野山大師教會福島四倉支部となる。

心光寺　小名濱町中町
淨土宗名越派
縁起　名越の巨刹なりしが安政三年燒し不詳。

開虎山淨光院　小名濱町古港
眞言宗
縁起　岩城親隆法名虎山公の安住せし所にして朱印を神谷に有せり、戊辰の役に陣屋兵火にかゝるや觀音堂を殘すのみにして烏有に歸す。後亮滋和尚再建す。開基年代不詳。

補陀洛山地福院　小名濱町蛭川
新義眞言宗
縁起　頼厚上人の開基なれども屢々燒失し開基年代不詳、大正九年再建

高野山長德寺　永戸村下永井
曹洞宗　本山鶴見總持寺
開山　平町性源寺四世信安受展禪師
檀家　百二十戸　念佛講あり
縁起　平町性源寺末にして長德四年信安受展和尚高野前に創立開山、後大破せし故寶曆十一年再建。

東光寺　永戸村澤戸
新義眞言宗
縁起　大野村惠日寺末にして長寬二年宥寶和尚の開山なり。

光福寺　永戸村合戸
新義眞言宗
縁起　大野村惠日寺末にして道知和尚の開基なり、一時燒失せしが文久二年祐山和尚再建す。

金蜂山圓福寺　鹿島村矢田
曹洞宗本山鶴見總持寺
開山　中山龍岐寺隆吉大亭芳賀和尚
檀家　三十三戸
縁起　天文二十三年領主下總守常陸開奨中山城主讃岐守隆吉公建立開山として大亭芳賢和尚を請す。後天下亂れ當寺も燒失し天正年間に再建、文化十二年燒失再建、中山讃岐守の子孫は現在不明なり。

コールタール販賣開始
一、コールタール一罐（十五キロ入）金八十五錢
一罐ヨリ配達致シマスカラ是非御試シ下サイ
電話三三七番
平驛前　阿部石炭商店

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）
森田女學校前
自炊のお爲めに應ず
入院の便あり

白柄劍風連

大島多慶夫作
井川洗厓畫
（第高）布施長春畫
村瀨春映畫
（[illegible]上映上演劇）

老劍術師（八）

……五七……

この老僧の物ごし恰好が、過ぐる夜の怪しい老人のやうに思はれた。そして、その時に蘇つた冒險を裏切つた、自分の行動を考へて、何だか申譯ないやうな羞恥の氣持がムラムラと湧いて來た。お柳は五左衞門が足をとめて何ごとか思案にしづんだので

「あら。松平様。どうなさんした」

と、いぶかしさうに訊いた。

「いや。何でもない」

と、また五左衞門は歩き出した、而し、その足取がいかにも遲い。老僧の姿はすぐ眼の前にとまつてゐる。また五左衞門の足はピタリと磁石に吸ひつけられたやうに停つた。

「どうしたんですよ。一寸さ」

お柳は心配さうだつた。老僧は振返つた。そして、片手で網笠の緣を上げて五左衞門の方を見遣つた。

「あつ」

と、五左衞門は我を忘れて叫んだ。

えやつと世にもない烈しい大きな聲が、老僧の口から吐かれると五左衞門とお柳の二人は、釘づけになつたやうに動かない。すると、また指尖の怪しい業が始まつた。五左衞門とお柳はバタリと折重なつて倒れた。

老僧は心地好さ相に笑つたがスタスタと何處ともなく走り出して行つた。

それからしばらく經つたところ鵜の目で人を探す風情のお染が走つて來た。そして、倒れてゐる五左衞門とお柳の姿が眼に入ると、

「おゝ。やつぱり幽兵衞様の仰有る通りだつた」

と、キリッと眦を釣上げて睨みつけた。

嫉妬、反感、憎悪、斯うした感情がお染の心の空虚を、海嘯のやうに猛烈に襲つて來た。

「口惜しいッ。畜生」

と、お染は流石に惚れぬいた男には手をかけずに、恋敵のお柳の髻をグッとつかんで大地に摺りつけた。

五左衞門は。夢から醒めたやうに我破と起き上つた。

「お染だな」

と五左衞門は矢庭に叫んだ。

そして、夢中にお柳を攫むお染の腕を、ムッとつかんで[illegible]せた。

「離せ。離せ。えつ離してお吳れ」

とお染はその手を振拂はふと悶掻いた。が到底男の力には及ばなかつた。そのうちにお柳も我に返つて起き直つた。

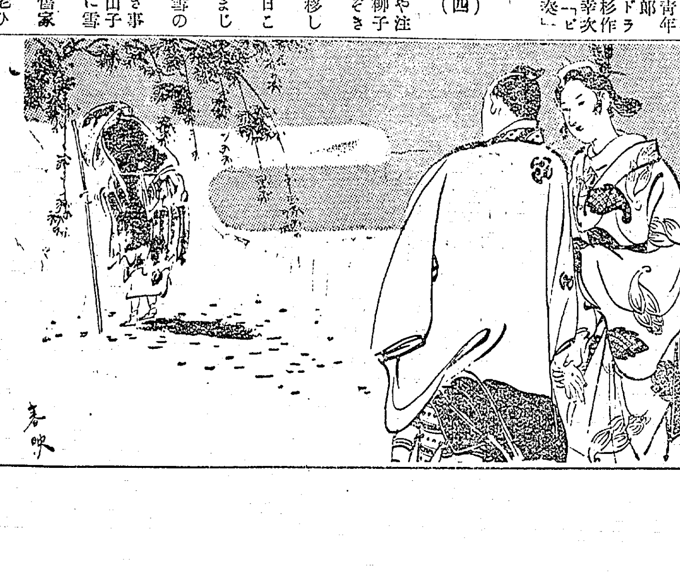
「あつお前さんお染さんだね」

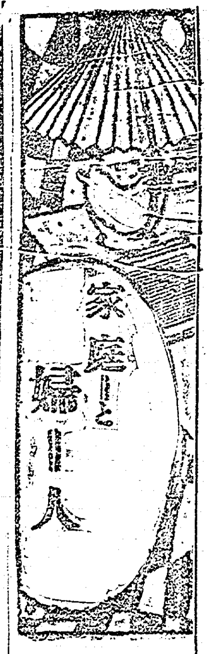
「畜生。よくも……よくもあたしの大事の男を取やがつたね」

お染は五左衞門から離れやうと試みたが、身動きも出來ない。五左衞門は[illegible]をした女であるから、さほど怖いとは思はないが、その狂人じみた仕打には凄い反感を覺えたのであつた。

「お染。氣を落付けろ。お柳がどうしたといふのだ」

「こんなことゝ思つてゐたんだお前さんの足が遠くなつたからほかに増す花が出來たと思つてゐたんだ。案の定。お前さんはお柳と……」





御存じ？

◇玉子燒鍋の洗ひ方　玉子燒鍋は、決して洗はずに、紙で充分油氣をふきとり、埃のかゝらぬやうに紙にくるんでおくと、つぎに使ふ時は容易に用ひられます

家庭悲劇の因！母と子の疎隔

信頼されゝば性問題も親子の間で解決出來る

まづ理解し合ふ事

解決の鍵は

人間として生きてゆくうちでこれは有難いことだ、特權だと感ずる事は色々あるが、私はよい子であり、よい親であると云ふ事ほど、有難い特權はないと思ふのである。私が二十四、五歳の頃英國へ行き、はじめて主人の郷里であるウェルスのスポンデへ參つた際、そこでお會ひする人の

誰でも異口同音に「あなたがテンの奥さんですか、テンのお父さんはいゝお方でした」と何處となく云はれました、やがて教會へ參りますと、こゝがテンのお父さんが牧師をして居られた教會ですと云はれますと、感慨が胸にせまつて泣けて泣けて仕樣がなく一度も見た事もなく會つた事もない人でありながら、云ひしれぬ愛情を感じ、尊敬の念がわきおこり、こんなに皆さんからいゝ人だと云はれる親を持つ事を、どんなに有難いことかと思つた事です。私共の婦人會へ若い婦人が

結婚問題になやんで相談に見えますが、何故兩親に相談しないかと聞くと云つても恃みを理解してもらへないばかりか否認されしつ責されるからだと誰でもこたへるのです、子供達と親御達の間にこんなに深いへだたりが出來たのは親御が時代の變化をみず人生を卒業した氣で固定した考へで子供をみるからである、ではどうしたらいゝかと云ふに親が親風をふかせず眞實に子供のフレンドになつてやりお互にふかく愛し合ひ他の人には

理解してもらへない事でも父母だけは理解してくれるだらうといふ信頼をもたせる事が現今の複雜な家庭問題解決の鍵であり性教育の問題なども親子の間で解決されてゆくでせう、子供が母を信頼して何事もつゝみ隱さずうちとけた時には子供と同じレベルになつてなやみを解決してやる事と子供の身になつて子供のする事を考へる事を考へてやれば間違ひは生ずるものでなく、子が

戀愛したとしても無闇にしかりつけなどせずに溫い愛情をもつて見守る樣に親心からみちびいてやるべきである、親たるものは子供の年齢とか境遇とか性質などをよく考へて共になやみ苦しみ共によろこびたのしむといふ事が大切であり、一寸したゲームをする場合でも子供だからワザと負けてやらず、眞劍になつて、やるべきである。家庭の中でも母と父とが心から協力する事は何より大切で、お互に愛し合ひ尊敬し合ふなら子供にもいゝ影響をあたへる事が出來るが、もし父が母を侮辱したり、蔑視したりする樣な家庭に育つた男の子はどうしても婦人を侮蔑するやうなものになるでせう、子供は日に日に進歩し成長するものですから、親たるものが始終成長進歩するには自分を標準としないこと

親も又人間である事をよく子供に理解させ、成長の標準になるものが、宗教による事、人間ではない絶對的なものにむかつて毎月成長を祈る、そこに不斷の必要があると信じます（ガンドレット・恒子女史談）

新女性べからず集

◎御作法の卷◎

■みだりにシャレるべからず

マニキュアをしてゐながら、黑い爪垢をとめるとはヤレ情けない。眉毛をそりながら、鼻毛たくましくハミだせるとは、ソモいかなる洒落ですか。

■みだりに喫煙すべからず

喫煙は世界各國（支那をふくめてすか）を通じて、近代女性のタシナミで、あなたの花のごとき唇から小さな煙輪がとびだす風景、いとも可憐のキワミです。つまり、坊やのおイタみたいで可愛らしいのですな。しかるに何ぞや、淑やかしき乙女の身にして、バットをフカすとはゾWGと煙草は、チャーンと婦人用がきまつとるです。バットを喫む男氣があれば、一歩をすゝめて、シガーはいかゞです。太いヤツをくはへて、銀座を濶歩したり……コリヤ受けますゾ。

一番歡迎される職業婦人の型は！

美人よりも寧ろ愛嬌者

女子就職戰線に一つの變つた傾向

何しろ、求人側の要求ときたら、まづ聰明なる美人たる事、身體強健たること、頭腦明せきたる事……と、理想を求め最初に家庭の狀況よきものときます、そしてテストは容貌をきはめ、身體檢査もレントゲンにかけたりするところもありますが、まづ近眼鏡をかけてゐるのは例外なく落第

■…といつて、わざと眼鏡を外して行つても、すぐバレます、美人が有利なのは當然ですが、いはゆる美人タイプ、くわしく云へば、美人のレッテルを自らはりつけてゐるやうな人は反感をもたれます、こんな人は雇つても同僚と折合ひが惡く男社員と風紀問題をおこす例がたくさんあるからです

■…こゝで推賞する「美人」はお顏の造作より、嫌味のない、愛嬌が豐富な人です、あまり明朗すぎると近代娘も困りもの、最近この種の人が壓倒的に多く、兩親の事など頭こなしにシャベル人もめづらしくありません、相手がお友達ならともかく、同じオヤヂ連中ですから、聞いてゐていゝ氣持はしません、すなはち落第です

■…職業婦人教育を施した學校の卒業生はやはり評判がよく、ノンビリとしたお孃さん學校の出身者はあまり香ばしくありません、いつも問題になる家庭の狀況は一ころのやうに、いはゆる良家のお孃さんをねらふ求人がすくなくなり、健實なサラリーマンの娘さんが一等歡迎されるやうになりました

理窟ぢやダメよ

節酒にはこのコツ

◇…御主人の酒のみを理窟を以てやめさせやうとするのは、一番下手なやり方で、かへつて御主人をおこらせ、家で飲ませなければよそで飲む等といふ事になり結局大事になつてしまひます、此處は一番奥樣方が腕によりをかけて御馳走を取むすびながら次第に飲まなくなる工夫をする事です

◇…さてそれには、第一、男といふものは案外單純で子供つぽいところがあるもので、會社からいそいそ歸つて來て御膳にむかふと、さて飲まうと思ひ定めてゐたわけでなくても急にむらむらと飲みたくなるといふ場合が多いのです、勿論中には本當に好きで咽喉をぐびぐびさせながら歸つてくる場合もありませう、とにかく空腹の時が一番酒がほしくなり、又一番おいしくもありそして一番身體にもわるいので、ですから、奥さまはそこをねらつて、お夕飯のすこし前に、わざとめづらしいお菓子とかおとなりから貰つた五目壽司なりお饅頭なり、作るのは御自分がつくつても、とに角さういふ事にして御機嫌とりとりなるべく澤山食べさせるのです

◇…さうしてからさて食膳につかせると一向お酒がほしくなくなります、又飲んで見ても大しておいしくないものです、三本のものなら二本、二本のものなら一本、一本の人ならちよびり入れてくれなどといふことになります

家庭メモ

■生ぐさい手

○…魚などをむしりまして指先に生ぐさいにほひがつきますとあらつてもなかなかとれません、これを除去する一方法としてくさくなつた手をあらふ時こすつてはいけません、水の中に兩手をサツトいれて、何物にもふれない樣にふりうごかしてあらひます

興味の良い煮込みうどん

之から喜ばれます

これから寒くなります、何よりあたゝかいものが喜ばれますが、特におウドンに一寸工夫をこらすと立派なものが出來ます

ゆず味噌入

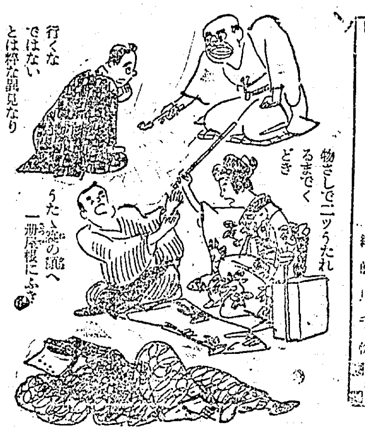
ゴマ匙三杯を煎つてスリ鉢ですつて甘味噌四杯砂糖一杯を加へて更にすつてよくまぜ茶碗一パイの水を加へてのばし、ゆずの皮をすこしまぜて鍋に入れ火にかけてこげつかぬやうにかきまぜながら煮ます、そこへウドン玉を入れ、強火にして鰹節を加へ煮ながら熱いところをいたゞきます

辛子うどん

からし匙一パイを溶き、甘味噌三パイを加へてすりまぜ、之に煮出汁、味の素を加へてかきまぜ、茶碗に入れます、鍋に湯を煮立たせ味噌コシを上にのせ、中央に前の茶碗を置き、その周圍にうどんのたまを入れて湯氣で蒸し、中央の茶碗を取出してミヂン切りのネギをまぜ、うどんを入れた味噌コシはこんろをかけたまゝ食卓にはこんだ熱いところをカラシ味噌をつけていたゞきます。大勢の場合はカラシ味噌は別の鍋であたゝめ、うどんも少しづゝ足しながらいただく方がよろしうございます

川柳漫畫

何食南北　繪　前川千帆


行くなではないとは粋な意見なり
物さしで二ツうたれるまでくどき
うたゝ寝の顔へ一冊屋根にふせ

寒い季節に

玉葱を時々食べませうね

お臺所の奥樣へ

これからの寒い季節には、時々玉ねぎを應用するのがいゝ、身體があたゝまり風邪をふせぐ藥効があり冷から起る腹の痛みをとゝのへるこれは不思議なほど效能がある

…○…

これからはやはり寒くなると、アンカやコタツにあたりながら澁ぬきの柿をたべる人がある、子供などに夜食させると、ひえを招き小用に度々おきるから注意しないといけない

…○…

これは西洋の諺にあつた話だから眞僞のほどはわからないが、リンゴを毎年つゞけて毎日一個づゝたべるといかなる頭痛持ちもピタリと治るといふ、何だかリンゴ屋の宣傳めいてゐるが、まんざら嘘でもあるまい、頭痛もちの諸君は一應おためしあつてもよからう。（藥を飲むよりうまくて經濟だから）

■大根おろしはジヤスターゼの消化酵素だといふが、これとてもおろしたての事であつて、二時間も三時間もおいたものは全くその藥效が消滅してしまふ、これは知つておくべき事である

■じやがいもは[illegible]のためにいいものだがこれを保存する時氣候をつけないと、くさらせてしまふ、くさつた部分は時々中毒をおこすことがある、じやがいもはかわいた所に保存すべきで決してしめつたところにおいてはいけない

炭　使ひ方要領

一、灰を充分ふるつてやわらかにしておく事、わら灰は火持をよくし石炭灰をふるつて用ゐると灰の固まるのを防ぎます

二、器具を選ぶ事、木炭用瀬戸コンロなどを用ゐると普通の三分の一で足りる

三、炭は必ず切つて使ふ事

四、粉炭は一割近く出るものであるから、必ず炭の底に入れて用ふる樣にするとよい

五、炭はかならず縱に埋ける事、通風よく立消えない

六、もしはねる炭は皮付の方から徐々に消火せしめるとよい

七、七輪には七、八分目に入れて完全に燃焼させる事

護れ太平洋の波

寺島柾史（作）

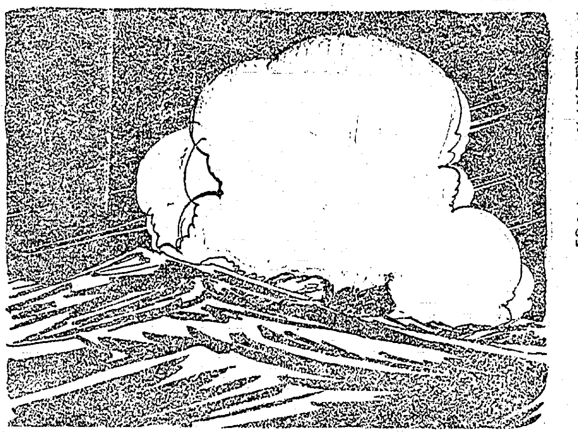
村瀬一春（畫）

…第五八…

島を失ふ（六）

しかも、それだけではなく、國に縮對されて經緯八十度くらゐになつても、決して轉覆しないで達磨のやうに起き上る。それは艇内到るところに取除機の空氣室があるからで、こんな小つぽけな汽艇にかゝはらず、その浮力は、百二三十人の乘員に堪へるのであつた。つまり、近代科學の最高能力を發揮した、完全な性能をそなへた救助艇としてつくられたものらしい。

これは、例の南洋の孤島ハワイ民族の隱れ島でつくられたもので太平洋を乘切つて北西に向けて航行をつゞけてゐるが、乘員はたつた三人。一人は島の女王エリザ、それから、もう一人女が乘つてゐるが、それはらしやめんお濤、男は、むろん粟飯原だつた。



粟飯原は、推進機のハンドルを握つてゐる。

三人は、とても呑氣さうだ。エリザなどは、島を、同胞をすてゝ來たといふ悔恨も、悲哀もなく、小鳥のやうに艇内ではしやいでゐる。

お濤だつて、そのとほり、決して從來の船室で紅い酒に醉つてゐるときのやうな暗鬱ではなく、娘時代にかへつたやうに、エリザとゝもに、はしやいでゐる。さういふときのお濤は、滿更でもない女にみえた。

『ね、ちよいと』

お濤は、行方を睨むやうにみつめたまゝ、だまりこくつてゐる粟飯原に囁つていつた。

『何だ』

『隨分、賑かな駆落ちやない？』

『何だ、そんなくだらないこと…』

『……』

『だつて、駆落なんていふものはもつと濕つぽいものよ』

『……』

エリザは、お濤にたづねた。

『カケオチつて、どういふ意味の日本語なの』

『まア、女王さまは、そんな日本語覺える必要がありませんわ』

『どうして？』

『それは、日本の珍しい言葉ですもの……』

お濤は、驅つたといふ顏をした

『いゝぢやないの、あたしもう、女王さまぢやないのよ。これから大陸へ渡つて何でもやるつもりなの、だから、いろんな言葉を覺えなければならないわ』

『でも……』

『敎へてよ』

『困るわ……ね、粟飯原さん、女王さまに敎へてあげてよ』

お濤は、粟飯原に助け舟をもとめた。

『駆落といふのはね……』

粟飯原は、笑顏ひとつ見せず、むしろ事務的にいつた『つまり、戀の逃行のことです』

『戀の？…… 誰が戀をしてゐますの』

『さア、どなたでせう』

『戀の經驗のないあたしには、逃行といふ意味がよく分らないわ』

『でも女王さま、あなたも、これから、たんと戀をしなければなりませんわ』

粟飯原は、お濤をたしなめた。

『よけいなことを云ふなよ』

とにかく、こんな具合で、大濤に搖られながら三人は、賑かだつた。行先はハワイ群島中の一小島、こゝで一先づ落着いて、それから大陸へ渡らうといふのだ。

ひところ下火となつた、太平洋戰爭の危機が、どこからかまた風のやうに傳へられて來た。

アメリカの新聞や雜誌も、日本のそれも、いや、直接利害關係のない國々の報道機關までが、大々的に、戰爭の切迫を報じてゐる。

アメリカの間諜が、日本の要塞地帶で捕へられたといふ新聞記事があるかとおもへば、パナマ運河の水門附近に怪日本人が現はれたと、懼れをなすアメリカ當局のことも、見てきたやうに報じる新聞もあつた。

謝恩奉仕大特賣
▼お買上げ壹圓毎に……抽籤券壹本添付……
▼特賣期間　來二月十五日マデ（舊正月五日）
▼抽籤日　昭和十二年二月十七日
▼當籤發表　同　年二月十八日
開業貳拾週年記念抽籤附
◇景品◇
一等　金側八型腕時計
二等　ポータブル蓄音器
三等　美麗置時計
四等　高級萬年筆
五等　二色シャープペンシル
六等　懷中、腕時計丸型硝子入替券
景品の數々　空籤なし
時計、眼鏡、貴金屬、萬年筆
平町二丁目　根本時計店　電話六〇七番

外科一般　レントゲン科
內臟外科　泌尿器科
北川外科
平町新川町二七（諸橋醫院跡）
醫學博士　北川芳夫
技師　小林良次
電話四六四番
（血液檢査每日）
イツデモ入院出來マス

冬物は是非！當店から
（在庫豐富）
玉屋洋品店　平町田町通　電話六五六番

◇謹告◇
最近諸物價が騰り各種の勞銀が値上になりました、當組合も一月十七日より一人金二圓に値上を決議堅く實行する事になりました事情御賢察の上引續き御用命相仰ぎ度く御願申上ます
平町大工組合

サロンで　エビ料理を
始めました
サロンベニヱ（天ぷら）
三十錢
ベニヱライス（天丼）
三十五錢
どうぞ御試食を
レストラン　サロン

三井タクシー
平二　電話五八六番

國旗と提灯　スガノヤ
平・四　電九五

かき料理となべ類
始めました……是非御試食下さい

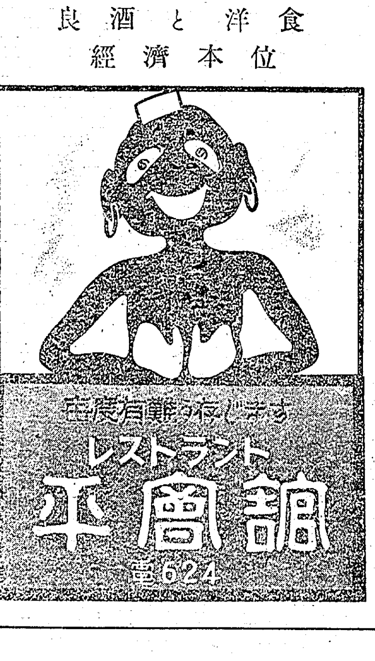
かきふらい	二十錢	かき酢ノ物	二十錢
あんこうとも酢	十五錢	よせなべ	三十錢
たらちりなべ	三十錢	ちりなべ	三十錢
はもなべ	三十錢	あんこなべ	三十錢
かきなべ	三十錢	ねぎまなべ	三十錢
鳥なべ	三十五錢	牛及豚なべ	三十五錢

金トンもあります二十錢
―此外御注文に應じ色々調理致します―
平二警察署通り
魚清食堂
電話六三三

信用堂の！
新春特賣
マント　三、二〇〇ゟ
男 小オーハ女　一、九〇〇ゟ
女學生オーバ　七、〇〇〇ゟ
東コート　四、五〇〇ゟ
オーバ　五、五〇〇ゟ
トンビ　六、五〇〇ゟ
モヂリ　三、五〇〇ゟ
學生外套　五、二〇〇ゟ
外各種豐富
仕立入念と絶對の安値
信用堂洋服店　平三・電話六一三番

吸入用酸素　純度99%
度量衡　モノサシ　マス　ハカリ
計量器　體温計　寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
關內藥局　電話四〇番
寫眞材料一式販賣致シマス

良酒と洋食
經濟本位


毎度有難う存じます
レストラント
平商舘
電624

おでん
呑兵衛
平町田町
末廣通錦水跡

鈴木醫院
平町田町
電五八番

吉田眼科醫院
平町紺屋町

難波醫院
平町大町新川端
電話五〇二番

御會葬御禮

昭和十二年一月二十日

嗣子　加藤正英